

授業科目

小児科学

担当教員名 新田 初美	対象学年	2	対象学科	救急
	開講時期	後期	必修・選択	必修
	単位数	2	時間数	30

ディプロマポリシーとの関連性

知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
◎	◎	◎	○	

授業の概要

小児領域は、成長過程により解剖・生理学的に特徴があることを理解したうえで観察・評価を行う必要がある。特に保護者との関係性、生活背景や経済状態などの状況によって複雑な対応を求められる可能性もあり、保健医療制度や社会・児童福祉との関連も理解しておくことが必要となる。

本科目では、小児の解剖・生理学の特徴、小児に対する観察・評価、小児領域に特有の疾患（救急疾患）や受傷（外傷）などの発症／発生機序、解剖・病態生理、症状、所見、予後等について、またそれらの観察・評価、救急時の対応等について学習する。

授業の目的

1. 救急救命士に必要とされる小児の解剖・生理学の特徴、小児に対する観察・評価、小児領域に特有の疾患（救急疾患）や受傷（外傷）などの発症／発生機序、解剖・病態生理、症状、所見、予後等について理解し、それらの観察・評価、救急時の対応等に関する専門的な基礎知識を修得する。

学習目標

1. 救急救命士に必要とされる小児の解剖・生理学の特徴、小児に対する観察・評価、小児領域に特有の疾患（救急疾患）や受傷（外傷）などの発症／発生機序、解剖・病態生理、症状、所見、予後等について理解し、それらの観察・評価、救急時の対応等に関する専門的な基礎知識を修得する。

授業計画

回数	授業計画・学習の主題	学習方法・学習課題・備考	担当教員
1	総論（1） 小児の特徴 1	講義	新田 初美
2	総論（2） 小児の特徴 2, 発達による救急疾患の変化	講義	新田 初美
3	小児の観察と判断（1） 小児の観察, 小児にみられる症状の特徴	講義	新田 初美
4	小児の観察と判断（2） 緊急度・重症度の判断	講義	新田 初美
5	小児の観察と判断（3） 処置と搬送時の留意点	講義	新田 初美
6	小児期における主な疾患（1） 熱性痙攣, 髄膜炎	講義	新田 初美
7	小児期における主な疾患（2） 脳炎・脳症, クループ・急性喉頭蓋炎	講義	新田 初美
8	小児期における主な疾患（3） 急性細気管支炎, 気管支喘息	講義	新田 初美
9	小児期における主な疾患（4） 腸重積, 急性腹症, 溶血性尿毒症症候群（HUS）	講義	新田 初美
10	小児期における主な疾患（5） 川崎病, 突発性発疹, 流行性耳下腺炎	講義	新田 初美
11	小児期における主な疾患（6） 溶連菌感染症, 乳児突然死症候群（SIDS）	講義	新田 初美
12	小児期における主な疾患（7） 被虐待児症候群	講義	新田 初美
13	小児の外傷（1）	講義	新田 初美
14	小児の外傷（2）	講義	新田 初美
15	まとめ	講義	新田 初美

使用図書

使用図書	書名	著者名	発行所	発行年	価格	その他
教科書	改訂第9版 救急救命士標準テキスト 下巻	救急救命士標準テキスト編集委員会	へるす出版	2015年	9,800円+税	1年次購入済
参考書						
その他の資料	必要に応じて参考資料を適宜配布する。					

評価方法

科目試験（100%）

不合格者に対しては、1回再試験を行う。

必要な場合、レポートを課し、その結果も評価対象とする。

履修上の留意点

本科目では、基本的事項を効率よく理解するために、指定の教科書を使用する。

授業前に教科書を熟読しておくこと。授業中は、講義内容を理解し、重要な事項はその場で頭に入るように配慮した講義を行うので、ノートはとらず、メモ程度にして考えるゆとりを作る。授業後の復習も必須である。

オフィスアワー・連絡先

授業内容の質問・相談がある学生は、所属学科・学年・学籍番号・氏名・用件を記入の上、office-hour@nuhw.ac.jpへご連絡ください。